

**リーダーシップとフォロワーシップを發揮し、進んで活動に参画する児童の育成**

長岡市立与板小学校

廣瀬 和典（平成 14 年度）

これまで私は、小学校学習指導要領特別活動解説 特別活動編 第1節に明示されている「自主的、実践的に集団活動に参加し、課題を解決することができる児童の育成」を目指し、教育活動に取り組んできた。しかし、一見すると学級全体で協力的に活動が進められているように見えても、実際は一部の児童が話し合いや活動を進めることが多く、すべての児童の「自主的に集団活動に参加し、課題を解決する力」を伸ばすことができていなかった。私は、児童が自主的、実践的態で活動に参加するためには、すべての児童にリーダー（集団の目標達成に向けて、集団を引っ張る人）とフォロワー（集団の目標達成に向けて、リーダーを支える人）の体験をバランスよく積ませ、リーダーシップとフォロワーシップを育てていくことが重要だと考える。私が考えるリーダーシップとフォロワーシップとは、それぞれ「集団を引っ張る力」と「積極的にリーダーを支える力」である。

これまでの私の実践を振り返ると、リーダーシップの育成に関わっては、特定の児童がリーダーに固定してしまう傾向があった。また、リーダーの中には、全体にどんな指示を出したらよいか、どんな行動をしたらよいか分からず、班活動を円滑に進めることができない児童や担任に言われたことしかできない指示待ちの児童など、リーダーシップを發揮できない児童もいた。一方、フォロワーシップの育成に関わっては、リーダー任せで活動への参画意識の低い児童もいた。

そこで、本実践では、「PDCA サイクルに基づいた計画的、継続的な指導」を手立てにし、リーダーシップとフォロワーシップを同時に育成できるよう、改善に取り組んだ。Plan では、道徳科と連携した授業の実施、リーダーシップとフォロワーシップを發揮する意義を理解する場の設定、リーダーとフォロワーの具体的な活動を理解する場の設定をした上で、めあてカードを記入させた。また、「キャリアカウンセリング」を適宜取り入れ Do につなげ、Check, Action では、意見交流の場と進捗状況を確認する場の設定、友達や担任による肯定的評価と振り返りの場の設定を行った。結果の検証から、リーダーシップとフォロワーシップを發揮し、進んで集団活動に参画する児童を育成する上で、この手立ては効果的であったと推察される。